

JSR 株式会社  
2024 年 3 月期 第 1 四半期決算説明会 質疑応答要旨  
(2023 年 8 月 7 日開催)

決算補足資料: [https://ssl4.eir-parts.net/doc/4185/ir\\_material\\_for\\_fiscal\\_ym/139410/00.pdf](https://ssl4.eir-parts.net/doc/4185/ir_material_for_fiscal_ym/139410/00.pdf)

**1. デジタルソリューション事業/ライフサイエンス事業について**

Q) 半導体材料の需要回復の見方について教えてほしい。今回の Q1 実績を踏まえ、半導体需要は Q2 から Q4 に向けて徐々に回復するイメージか。

- FY22 実績は上期の需要が堅調であったが、下期に大きく落ち込んだ。FY23Q1 は依然として弱含みの状況が継続も、FY22Q4 実績を上回った。当社の今年度事業計画では、当初より半導体材料の売上収益は前年対比概ね横ばい、需要はシリコンウエハーインプット-5%を想定していた。足元の需要環境では Q1 は比較的弱い戻り基調であり、当社想定を下回るリスクの方が高いと見ている。
- 半導体の成長力が鈍化するわけではないが、需要は Q2 から徐々に回復、下期にかけて回復のペースが上がってくる見込み。短期的な需要の回復速度には不透明感があるが、FY24 に向けて回復の確度は高いと考える。

Q) 半導体材料の Q1 実績は想定を下回ったということだが、下振れの具体的な要因を教えてほしい。韓国メーカーの減産影響が大きいのか。

- Q1 計画対比下振れの要因に韓国メーカーの減産影響は一部あるものの、メモリ全般で需要低調が継続したこと、ロジック分野でも回復ペースが遅れていることが影響している。
- 全般的に半導体需要の回復が後ろ倒しになっていると見ている。

Q) 半導体材料の売上の伸び方について、Q1 から Q2 にかけては若干改善する程度の認識であっているか。受注に大きな回復の兆しはないとのことだが、アプリケーションや地域別で何か違いがあれば教えてほしい。

- 3 ヶ月先の見通しは不確実性が高いものの、現時点では少なくとも Q2 は Q1 より若干の回復基調にあるといえる。
- アプリケーションや地域で大きな違いは見られないが、メモリは回復のペースがやや遅れてきている。ロジックについても、全般としては弱い状況だが、一部立ち上がりが見えてきている。一方で、車載向けの半導体やディスプレイ向けの半導体など、いわゆるレガシーと呼ばれるようなアプリケーションについては、比較的堅調となる兆しが見えている。当社は先端だけではなく、レガシーと呼ばれる半導体分野も幅広く展開していることから、一部回復を見込む。

Q) ライフサイエンス事業について、特殊要因を除けば想定線だったとのことだが、実績を見ると弱いように見える。CDMO の売上のうち、コロラド工場の影響度などを定量的に教えていただきたい。

また、QoQ の減益要素は IVD のみという認識でよいのか、IVD の通期売上見込みの達成確度について説明いただきたい。

- 決算資料 4 ページに記載がある特殊要因 45 億円のうち、CDMO のコロラド工場の大規模修繕が半分、残りが評価損等の会計要因。コロラド工場の大規模修繕は計画に織り込み済み。
- 全体としては、特殊要因を除くと、概ね想定内。IVD の抗原検査キットの販売は、今年度下期に想定しており、現時点で受注が減少するようなことは想定していない。
- CDMO のコロラド工場の修繕は、根本的にインフラを強化する大規模な工事であり、Q1 は工事期間だったためほぼ生産ができなかったことが売上減少の要因。受注状況については問題ない。その他 CDMO の Q1 売上は想定通り、コストを抑えることで若干の増益だった。
- 一方、CRO は開発を担うベンチャーの資金調達が難航しており、顧客の開発活動へも影響が及んだ。今年度の計画に一部需要の減速は織り込んでいたものの、米国だけではなく中国の需要・景気の影響を受けて当社 Q1 実績も想定以上に弱い結果となった。

## 2. JIC キャピタル (JICC) との戦略的パートナーシップについて

Q) 現状、どのような方向性で業界再編を目指していくのか、お示しできる点があれば教えていただきたい。また、一部報道では垂直統合のメリットは限定的といった内容もあったが、業界再編の考えについて説明いただきたい。

- 6 月 26 日に当社より「JICC-02 株式会社による当社株式等に対する公開買付けの開始予定に係る賛同の意見表明及び応募推奨に関するお知らせ」を開示し、12 月下旬に公開買付けの開始を予定している。現在の重要事項としては競争法含む国内外の関連規制の手続きが挙げられ、これについては粛々と進めており順調に進捗している。
- 業界再編については、国内材料業界で垂直的にも水平的にも非常に幅広い技術や人材を持つ企業や事業が多くある中で、特に限定をせずにあらゆる可能性を今後検討していく。一部報道の内容は、あくまでも一般論としてメリット・デメリットの例示をしたもので、当社方針に変更はない。

Q) 一部報道で、業界再編の資金手当として他の事業、例えばライフサイエンス事業を売却するといった可能性を否定していなかったように見受けられる。そのような検討をしているのか。

- JICC との戦略的パートナーシップのもとで、半導体材料における業界再編を目指すとともに、当社のコア事業の一つであるライフサイエンス事業含め全事業ポートフォリオにおいて企業価値最大化に取り組む事業戦略に変更はない。
- 事業ポートフォリオの最適化は、今回の戦略的パートナーシップの有無、上場/非上場に関わらず経営として常に行っているものである。当社も過去から事業ポートフォリオの変革を行ってきており、今後も経営を行っていく上で、一般論として様々な選択肢が存在する。

Q. 一部報道で、非公開化をすることで、いわゆる外国人株主の制約を受けずに戦略を進めるという趣旨のコメントがあった。改めて非公開化の背景を教えてください。

- 今回の非公開化の目的は、非公開化そのものというよりも、JICC との戦略的パートナーシップのもと非公開化を通じて、短期的な業績への影響にとらわれず、中長期的な視点で柔軟かつ機動的に戦略を推進することを可能にすることである。
- 外国人株主が多いことが今回の非公開化の背景にあるという報道があったと認識しているが、あくまでも上場会社と非上場会社の意思決定における一般的な違いを例示したものの。

以上